

鴻島

ニュース

ごあいさつ

中央地区自治会長 長瀬直

初夏を想わず良い天気恵まれた今年の5月の連休でした。たくさんの方々と一年ぶりに再会し、楽しい一時を過ごしました。5月3日の第12回総会におきまして又々会長の再任となりました。他の役員の方々も留任となりました。会員の皆様のご協力の基に又、一年微力ながら会の運営に努めて参ります。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

治会は、別荘購入者が販売業者倒産後、購入資産の自己防衛の為に互助会として発足致しました。もう13年目に入っています。その間、日本経済も全く変化して、今は別荘維持もそれぞれ大変であろうと考えられる次第です。又、所有者の入れ替りも年に4、5件でいる現状ですが、様々な取得手段があり自治会参加が残念ながら全員参加になっていないのが実情です。しかし、町道以外の道路も、水道も、ゴミ補助も全て、自治会の皆様の会費で運営しています。この事実を隣り近所で事情の知らない方へ、出来れば説明して理解を広めていきたいと思えます。そして今年も一年、会員の皆様と島のすばらしい景色を見て、仲良く楽しみたいと思えます。

第12号
— 2003 —
中央地区
自治会
広報委員会

総会報告

第12回鴻島中央地区自治会定時総会が、連休中の5月3日に日生小鴻島分校講堂において開催されました。出席者及び委任状を頂いた方々で107名(79%)となり総会は成立致しました。総会は会計の森さんより会計報告、続いて会計監査役の寺浦さんの監査報告がありました。承されました。続いて平田事務局より日生町と鴻島についての諸事情についての連絡と説明等があり出席者と様々な意見交換等がありました。役員についても一部の入れ替りも他全員の留任が了承されました。又、今年度予算案も出席

会計報告 削除

者全員の賛成で承認されました。今回から、毎年秋に大林地区と共同開催されていたふれあいの会が昨年より無くなった為、中央地区会員の皆様方の交流の場が無くなりました。その為、総会の後に酒、ビール、たこつぼのオードブル、すしパック、おつまみ等で約2時間程、和気合々の懇親会が開催されました。大変好評でしたので、来年も行う予定です。ぜひ、多数のご参加を期待しています。

事務局よりお知らせ

昨年よりゴミの分別収集が行われています。まだ一部の方が、指定通りに行っていない。自治会では、収集業者に補助金を月5万円支払って、指定通りにならないゴミも回収してもらっています。皆様の廻りの方々にもルールを守るようにお互いに気を配って下さい。念のためゴミのルールを確認しておきます。

ごみの収集日

ごみの種類	収集日
もえるごみ	毎週火曜日
ペットボトル トイ 紙類	毎月 第4木曜日
ビ もえない 粗大 ゴミ	毎月 第3木曜日

- ・生ゴミ(可燃物)を日生町指定ゴミ袋(10枚450円)に入れて出す
- ・従来の黒かスーパの袋ではゴミは持っていけないので使用しないこと
- ・缶・ビン(不燃物)は透明な袋に入れること(スーパの袋も可)
- ・ペットボトルはラベル・金属フタ等を取り透明な袋に入れること
- ・以上別々にゴミ袋に入れてください



★会員でない人に 申しあげます。

自治会活動は会員の負担で行われています。別荘地も16年たち道路の補修や溝掃除も会費でまかっています。しかし会員外の人たちは何も負担していません。道路や溝や車の撤去や水道の破損も全て会員たちの負担なのです。折角手に入れた別荘も公共性は高いのです。皆様相応の負担するのが社会のルールだと思えます。島を利用するにはぜひ、会員になって頂きたいと思うのですが。

★車両放置は絶対に やめて下さい。

今季は、車両の撤去を致しません。だんだん増えて通行の邪魔になっています。撤去費用は自治会で負担しています。中央地区で約30軒の人が会員ではありません。皆様の隣近所で会員外の人が車の使用をしている時、その後放置がないかよく注視して下さい。放置がわかれば自治会で注意したいと思えます。

★火事の予防のお願い

鴻島では過去16年間に6回の火事が起こっています。特に強風が急に吹く事もあり、ゴミや落葉等のたき火は絶対しない様に気を付けて下さい。お互いに注意しましょう。

新聞だより

同好会のご案内

現在、左記の同好会が活動しています。会員の皆さんの親睦目的につくられた会です。上手も下手ありません。楽しい一時を過ごしましょう。皆さんの参加をお待ちしております。

○土いじりの会

備前焼が隣町なので窯元で教えて頂きながら、童心にかえり、泥遊びはいかががでしょうか。

079413510466

森田迄(会社)

○魚釣りの会

磯釣り、船釣りを楽しみながら、自慢話に花を咲かせてみませんか。

樽家紀之

○ゴルフの会

上級者はもちろん、初心者の方も大歓迎です。年に2、3回のコンペで練習の成果を競ってみませんか。

長瀬迄(会社)

061645110578

役員名簿(平成15年度)

- (会長) 長瀬 直
- (会計) 森 啓充
- (監査) 寺浦 格、樽家紀之、青野正勝
- (事務局) 〇八六九(八八)七五六 平田文夫
- (理事)(再任) 桑原高己、松井努、藪野孝治、浅島俊男、米田稔、泰脩、二山本頭、吉田とし子、森田孝、岩坂春一
- (新任) 西野健一
- (退任) 飯田龍平 (順不同)



新鮮な魚介類が販売され、家族連れでにぎわった真魚市
三周年記念感謝デー

新鮮で安いでよ

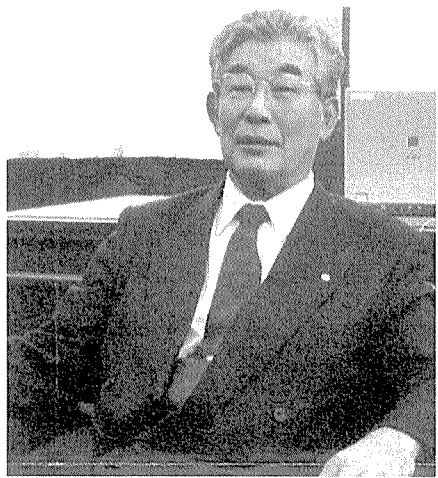
伊里漁業協同組合が毎週日曜日に開いている朝市「真魚市」の三周年記念感謝デーが、備前市穂浪の同漁協で開かれた。県内外からから多くの家族連れが訪れ、新鮮な魚介類を次々に買い求めた。

漁協施設内では、瀬戸内海の捕れたてマナガツオやアジ、メバル、コブダイ、アナゴなどが市価より一、二割安く販売され、観光客で大にぎわい。

人気を呼んだマグロの解体販売では、体長二匹、重さ百三十キロのホンマグロがさばかれた。〇・五キロが千円と格安で、観光客がわれ先にと手に取っていた。スイカやブドウ、トマト、キャベツなどを即売するテナントが出されたほか、じゃんけん大会もあった。真魚市は一九九九年七月十一日にスタート。毎週日曜日の午前七時から、片上湾から小豆島沖までの漁場で捕れた魚介類を販売。県内をはじめ、京阪神地方からの観光客の好評を集めている。

観光通じた地域づくりを

再選を決めた松原和也・日生町長(63)



まつばら・かずや 町建設課長、町民課長などを経て1998年10月、町長初当選。町社会福祉協議会長などを務める。備前高卒。63歳。日生。

任期満了に伴う日生町長選で、無所属現職の松原和也氏が再選を果たした。町では地場産業の活性化や進む少子高齢化への対応、市町村合併など課題は山積している。二期目の抱負を聞いた。

――激戦の末、再選を果たし、二期目の町政運営をどのように考えているか。

「二期目はこれまでの事業を継続しながら、徐々に『松原カラー』を出したいと思っている。一番は観光を通じた地域づくりを力を入れたい。長引く不況によって税収の落ち込みが懸念される中、町が生き残っていくには、海の資源を活用した観光しかない」

――具体的プランは。

「県が整備を進めている海洋牧場の給餌施設や種苗センターと併せて、観光用の釣り堀や水族館をつくりたい。漁

新首長インタビュー

業の町・日生をPRし、日生諸島・鹿久居島の古代体験の郷『まほろば』と一体になった観光の目玉をつくり出したい。地元漁協ともタイアップしながら、一連の事業を進めていくつもりだ」

――活性化は日生諸島の架橋事業が重要なカギを握る。二〇〇四年末完成予定の頭島

―鹿久居島の頭島大橋(仮称)に加え、島と本土との連結が急がれる。

「架橋事業は日生にとって『夢の架け橋』。橋が繋がらなければ、夢はつながらない。国や県の財政状況も非常に厳しいが、頭島―鹿久居島間のめどが立った今、鹿久居島―本土間の事業採択に向けて、粘り強く交渉を重ねたい」

――昨年の日生町信用農協の経営破たんは地元経済に打撃を与えている。

「町ができることは限られるが、破たんに伴う暗いイメージを払しょくし、連鎖倒産だけは食い止めるよう努力しなければならぬ」

――町の人口は一九六五年をピークに減少が続いている。少子化への対応は。

「町の少子高齢化は急速に進んでいる。就学前児童の医療費の全額補助や出産祝い金の交付などを行っているが、定住化に向け、若者にとって住みやすい生活環境を整えていくことが重要だ。若者向けに広い間取りの町営住宅の建設に取り組んでいる」

――市町村合併について、邑久、赤盤郡では具体的な動きが進んでいる。和気郡と備前市は取り組みが県内で最も遅れている地域だが、避けては通れない。日生町の方針は。

「合併のスケールメリットを考えた場合、備前市と和気郡四町の一市四町が一番、望ましい形ではないだろうか。しかし、長期的な視点で合併のメリット、デメリットを考え、住民の意思を最大限に尊重して議論を尽くすことが大切だ。財政的優遇措置のある合併特例法の二〇〇五年三月の期限にこだわる必要は全くない。町としては住民の判断材料となるよう、十分な情報提供を進めていきたい」

人物紀 岡千秋さん(51)

作曲家

断るまでもないが、押しも押されもしないヒットメーカーである。その地歩は、十八歳で訪れた落胆誘う人生の転機を、挫折せずに歩んだ結果、固まった。歌手志望だった。

「赤いグラス」の作曲者牧野昭二さんに師事したんですが、歌は個性がないから駄目と言われました。そのとき、作詞家の久仁京介さんに「しよけててもしようがないから曲でも書いて」と勧められたんです。で、師を上回る作曲家になろうと決意した。

歌い手だったら成功していたかどうか。その意味では牧野先生は恩師です。いまだに交流も持っています

生活のため出前持ちや、バーでのピアノ弾き語りもしながら苦節十年で花は開き始め一九八三年、ついにあの大ヒット曲「浪花恋しぐれ」を生み出した。都はるみとのデュエットの相方を自ら担当し、レコード大賞特別金賞に輝いた。

ヒットの予感?ありました。自分なりにできる限りの努力はしましたから

岡山県東部、瀬戸内海に浮かぶ日生諸島の一角、鴻島で生まれ、少年時代を過ごした。小学校四年くらいまでは電気がなく、ランプ生活。トランジスタ・ラジオから流れてくる歌謡曲を聴いて育ちました。それが歌を好きになるきっかけになりました



その島にすでに家はなく、風景も様変わり。別荘が建ち並んだりしている。

三、四年前に行きましたが、ああなんと寂しいものがありますね。もう昔の面影はゼロに等しい。自分なりの島のイメージを持ち続けていますから、もう行きたくないようなそんな気分もあります

おか・ちあき 日生中学卒業後、歌手を志して大阪へ出、17歳で上京。1970年、日吉ミミの「むらさき慕情」で作曲家デビュー。「浪花恋しぐれ」の翌年にはレコード大賞曲五木ひろしの「長良川艶歌」を生み出すなど目覚ましい活躍を続けている。東京都在住。

2003 サンバースフェスティバル

〈日生水産業祭〉

雨天決行

- ◆とき 6月1日(日) 午前9時30分～午後3時
式典午前9時～午前9時30分
- ◆ところ 日生港第1工区広場(もやい茶屋前)